

清末民国初、江南における租棧・業戸・佃戸関係再
論：九州大学所蔵、江蘇省呉・長洲県馮林一棧関係
簿冊の再検討・補遺

川勝，守

<https://doi.org/10.15017/1867923>

出版情報：史淵. 135, pp.43-71, 1998-03-10. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

清末民国初、江南における租棧・業戸・佃戸関係再論

——九州大学所蔵、江蘇省呉・長洲県馮林一棧関係簿冊の再検討・補遺——

川 勝 守

はじめに

中国地主制度の最終段階に出現した租棧とよぶ地主管理機構については、故、村松祐次一橋大学教授の一連の研究⁽¹⁾によつてそのほぼ全貌を知ることができる。村松教授によれば、租棧というのは地主つまり管業戸であつて、主として何らかの官職背景をもつている紳士、郷紳が、他の業戸地主からその所有地の管理を委託されて、これを自己の所有地や、受典地などと共に一括して管理と、コツミション・ペーシスでその全体から小作料を徴収し、その全体について税を代納するために設けた、土地の管理経営と包攬との大規模機構である、という。そして、そのような性格を最も十全に示すのは、徴税関係と小作関係とを、同一の地片について同時に示す蘇州府呉県、長洲県の馮林一棧関係簿冊がある。村松教授が利用し分析したそれは東洋文庫所蔵の十種二十四冊の手書き本、帳簿であるが、すでに筆者がこれまで論考、著書で指摘してきたごとく、九州大学文学部東洋史関係図書の中に十種二十九冊の手書き本があり、いずれも村松教授が利用した東洋文庫所蔵簿冊と同様に清末蘇州の馮林一関係

簿冊であつて、両者は内容的に密接な関係がある。両機関所蔵簿冊の内容的対応関係はすでに明示してきたが、行論の都合上、再々掲載することにする。

第1表 馮林一棧関係簿冊一覽

(東洋文庫)

番号	表記	帳冊数	年次記入	番号	表記	帳冊数	年次記入
1	※吳邑各都図漕米總冊	一		(一)	吳邑銀漕有閩副冊	一	光緒二二八七六年
2	※長邑無閩漕米總冊	一		(二)	吳邑無閩辦糧冊	一	光緒二五二八九九年
3	※長邑無閩田單冊	四	光緒二〇二八九四年	(三)	長邑佃冊	一	
4	※長邑出由掃図冊	八	光緒二二二八八五年 乙酉	(四)	長邑佃冊	一	光緒三四二九〇八年
5	※各姓推下	一		(五)	辦糧底冊	一三	民国二九二二一年
6	※長・元単数 (丁未年勸官義荘田数底冊)	一	丁未年 (光緒三三一九〇七年)	(六)	長邑各都図漕米總冊	二一十	
7	「同治吳郡都圖」	三		(七)	※長邑各都図無閩田單冊	四	光緒一七二八九二年
8	「長邑拾玖年分無閩漕米冊」	二	光緒一九二八九三年	(八)	※長邑経号田單底冊	四	
9	「長邑有閩漕米冊」	二		(九)	長邑小租簿	一	宣統元二九〇九年
10	「長邑無閩上下忙漕米冊」	一		(十)	長元吳三邑条漕彙計	一	
11	光緒廿七年無閩長邑条漕知單	一					
12	光緒廿八年無閩長邑条漕知單	一					
		二六				二九	

(注) 表中の※印は一頁目に「馮林一棧備考」の記入がある。

これまた既に筆者は指摘したことだが、それら簿冊は租棧が各地片ごと、各年次ごと等に経営管理を目的として作成したもので、本来、それぞれ特定の使用目的を持って作成したので、同一内容のものは本来有り得ないものである。従って、それぞれの簿冊は、租棧管理の一部分部分を表現する存在である。そこで筆者は村松教授が利用できなかった九州大学所蔵簿冊を分析することで清末江南の地主租棧制度に関する新知見を付加してきた。旧稿、前著で作業はほぼ終了しているが、誤解に基づく誤りが一点と若干の言い残しが有って補遺訂正が必要である。誤りの訂正は右第1表(五)『辦糧底冊』B、C冊の成立時期に関してであり、それは馮林一棧の民国初年の状態の趨勢を知る上で重要な資料となる事柄であり、また言い残した点には租棧の納税関係の実徴引き事務に関する事柄があり、それが清末江南の租棧地主制度における徴税関係の歴史的性格を理解する上で極めて具体的に問題になる事例と思われる。

{一} 九州大学所蔵『辦糧底冊』三冊の作成年次の訂正

九州大学所蔵馮林一棧関係簿冊(前掲、第1表、参照)中に(五)『辦糧底冊』三冊がある。それぞれ冒頭の地片の都図は、一都六図、一都一図、九都一図で始まる。旧稿、前著では仮にA冊、B冊、C冊としたので本稿もそれを踏襲することにする。すでに旧稿、前著に指摘した通り、三冊は冊葉寸法に差異があるが、中身の用紙は同一で、左右十六行、計三十二行を中央で二つ折りにして袋綴にしてあり、版心に「辦糧底冊 宣統元年◎ 吳垂裕義莊」と刷つてある。この吳垂裕義莊は馮林一棧関係地の業主、糧戸として登場する吳姓の義莊と思われる。さて、旧稿、前著では各冊記入内容の全体を知るために、ABC各冊の各都図について地片数、業戸数、面積合計を出して、表化(第8表)し、その各都図の存在を村松氏の研究に引かれている馮林一棧関係地の都図と対照すると、A冊は吳県分、B冊は長洲県分であることが判明した。それに対して、C冊はA冊と同じ馮林一棧の吳

県分であつて、A冊とは異年次の簿冊だと判断される。そして、その年次については、A冊に丁ないし丁・戊、C冊（及びB冊にも）に庚と朱印が押されていることから、A冊は民国六（丁巳、一九一七）年か七年（戊午）、C冊（及びB冊）は宣統二（庚戌、一九一〇）年とわかる、とした。すなわち、C冊がA冊より先年の庚年としたのである。しかし、それは再考の余地がある。特にC冊かB・C両冊に挿入してある「中華民國八年上忙易知由単」、「中華民國八年下忙易知由単」、「中華民國八年漕米易知由単」、及びC冊に添付してある「中華民國十年下忙易知由単」・「中華民國十年漕米易知由単」の中華民國八年及び同十年という年次との関連をより深く考慮すべきであつた。それは、旧稿、前著で指摘したように、『辦糧底冊』に「易知由単」が挟まっている（貼り付けてある）ことによつて、租棧が納税名義人から税を代納する手続きがある程度わかることになる。つまり、納税名義人⇨糧戸は徴税催促書である易知由単をまず租棧に提出し、納税済みとなると、県知事の公印が押されて租棧に来る（「串載」「来申」の由来）。そしてそれは租棧に残つて、納税名義人に渡らなかつたのではないかということである。以上の租棧が納税名義人の納税代行⇨包攬の手續きを考慮すれば、中華民國八年の納税催促書⇨易知由単が納税済みとなり、納税領収書となつた後にC冊B冊が作成されたとも考えられるのである。その場合、庚年は庚申、中華民國九年（一九二〇）となる。十年の食い違いがおこる。この場合、C冊ないしB冊に挟んであつた「中華民國八年の易知由単」分の地片がすべてC冊に記載されていないことを如何に考えるかが残る問題となるだけである。しかし、逆の場合、つまり筆者が旧稿、前著において従来考えたように、A冊の成立が民国六、七年でC冊が宣統二年とすると、馮林一棧関係地の両者にC冊⇨A冊と、減少分が出ることになり、旧稿、前著に表化（第9表）して示したごとく、減少額は二七四畝七二六となる。そしてその分は陳余慶の二〇畝〇三を除く二五〇畝余が呉留余分である。この呉留余こそC冊B冊に挟まれた「中華民國八年の易知由単」の糧戸⇨業戸名である。A冊からC冊へ二七四畝余の減少分があり、その殆どは呉留余分であるとすると、その時点で馮林一

棧は吳留余分を減少放出していることになり、なぜ「中華民國八年の易知由単」が馮林一棧に残っているか、というより吳留余はA冊の二、三年後に再度「易知由単」を馮林一棧に持つて来たことになり、この間の経緯の説明が全く困難になる。吳留余の二五〇畝余の減少と中華民國八年の易知由単の存在とは絶対に両立できない事柄である。その結果、A冊からC冊は減少ではなく、増加であった。それはA冊が先時に成立し、後にC冊が作成されたと考える他はない。従つて、C冊及びB冊の成立は庚申の年、中華民國九年となる。以上から馮林一棧は辛亥革命の影響で関係地を減少させるのではなく、さらに新しい吳姓、吳留余の土地が中心であるが、吳留余は中華民國八年分の上下忙銀、同年漕米徴収に関わる易知由単を馮林一棧に寄託して来ている。さらに糧戸名が増記という中華民國十年の易知由単が『辦糧底冊』C冊に二枚添付してある(写真複写参照)。一枚は「中華民國十年漕米易知由単」、もう一枚は「中華民國十年下忙易知由単」とであるが、両者の易知由単の納税者たる糧戸名は「増記」と墨書されている。「増記」とはいかなる糧戸＝業戸か。九州大学所蔵史料(六)『長邑各都図漕米総冊』第四、五冊の業戸名に吳守倫忠、吳忠記、吳貽記、吳守倫貽が見え(川勝守『明清江南農業經濟史研究』四二九―四三二頁、第11表、参照)、吳忠記や吳貽記が確認されるから、増記もまた吳増記という吳姓業戸の一種の企業経営を示すものと思われる。しかし、それ以上のこと、例えばそれは吳留余と関係するか否かなど詳細は不明である。唯一手がかりになると思われることが中華民國十年の易知由単が貼つてある『辦糧底冊』の個所だが、十四都五図の以下の三地片である。

十四都五図 則田四十八畝五分 糧戸吳善基 原報 号(以下、上下忙銀額等省略)

則田 七畝四分 糧戸吳婦耕 原報 号(同)

則田 三畝四分 糧戸吳經鋤 原報 号(同)

中華民國十年の二地片の都図は三都五図、面積は五畝二分三厘三毛で、特に前者の都図の所在からみて二地片

中華民國八年十月廿七日

吳縣知事為賦征下忙給發田單事
 兩合銀元二元五分定於八年
 月 日即陸歷
 兩月仍未完納者加十分之一除出示布告外合將各戶實征銀數先行發單通知為
 此仰業戶查照發開科則應完銀數如期赴柜完納逾期則應完銀數加十分之一加征後至
 須至單者
 計開
 字 柜 西拾捌都拾捌 園伍吳 伍餘
 一畝一分二厘五毫
 應完民國八年熟田下忙銀
 中華民國八年 月 日
 中華民國八年 月 日

中華民國八年十月廿七日

吳縣知事為賦征下忙給發田單事
 兩合銀元二元五分定於八年
 月 日即陸歷
 兩月仍未完納者加十分之一除出示布告外合將各戶實征銀數先行發單通知為
 此仰業戶查照發開科則應完銀數如期赴柜完納逾期則應完銀數加十分之一加征後至
 須至單者
 計開
 字 柜 西拾捌都拾捌 園伍吳 伍餘
 一畝一分二厘五毫
 應完民國八年熟田下忙銀
 中華民國八年 月 日
 中華民國八年 月 日

中華民國十年十月廿七日

吳縣知事為給發田單事照各業戶應完銀元伍
 元正定於十年 月 日即陸歷
 日為征收期限逾期加收二十厘
 加至兩月仍未完納者
 加十分之一除出示布告外合將各戶實征米數先行發單通知為此仰業戶查
 照後開科則應完米數如期赴柜完納逾期則應完米數加十分之一加征後至須至單者
 計開
 字 柜 泰 伍 園伍吳 伍餘
 五畝二分三厘三毫
 應完民國十年熟田下忙銀
 中華民國十年 月 日
 中華民國十年 月 日

易知由単とそれが貼られていた『辦糧底冊』の当該箇所とは何の関係もなさそうである。

それにしても、これら易知由単の存在により馮林一棧が呉姓等業戸からその納税代行のため各業戸名の易知由単を取り扱ったのは中華民国十年までは少なくとも確認できるのである。と同時にその時までには馮林一租棧納税代行は増加し、租棧規模は更に拡大したものと思われる。

ここで彼の易知由単二種の現物を検討しよう。現物は右に写真を示した通り、一種は「中華民国八年上忙易知由単」、もう一種は「中華民国八年漕米易知由単」の二種類である。「中華民国八年上忙易知由単」は上欄に右から左に表題を横書きし、その下欄に、

吳県知事為啓征上忙、給發田單事。案照各業戸応完本年分上忙銀正、省県附税、每

両合銀元二元五分、定於八年 月 日(即陰曆 月 日)至 月

日(即陰曆 月 日)為征收期限、通限加収二十分之一、加征後至

兩月、仍未完納者、加十分之一、除出示布告外、合將各戸実征銀數、先行發單通知。為

此仰業戸查照、後開科則応完銀數、如期赴柜完納、隨時掣串安業、切勿觀望遲延、

須至單者。

計開

字 柜 (西拾捌) 都 (拾捌) 凶 糧戸 (吳 留 余)

山

則 田 (一) 畝 (一) 分 (二) 厘 (五) 毫

地

蕩

応完民国八年熟田上忙銀 (陸分伍厘)

中華民國 年 月 日給 如有舛錯 呈請更正

県 第 号 (二百四十九)

次に、もう一種の「中華民國八年漕米易知由單」は、やはり上欄に表題を記し、下欄本文には、

呉県知事為給発由單事。案照各業戸応完本年分漕米、省県附稅、每石合銀元伍元正、定於八年 月 日(即陰曆 月 日)至 月 日(即陰曆 月 日)為征收期限、通限加征二十分之一、加收後至兩月、仍未完納者、加十分之一、除出示布告外、合將各戸実征米數、先行發單通知。為此仰業戸查照、後開科則応完米數、如期赴^①完納、隨時掣單安業、切勿觀望遲延、須至單者。

計開

字 柜 (西拾捌) 都 (拾捌) 囤糧戸 (吳 留 余)

山

則 田 (二) 畝 (九) 分 (九) 厘 (二) 毫

地

蕩

応完民国八年熟田冬漕米 (式斗壹升陸合)

中華民國 年 月 日給 如有舛錯 呈請更正

県 第 号 (百六十)

第2表 『辨糧底册』易知由単

	易知由種類	都	図	糧戸名	面積	税銀額	漕米額
1	八年上忙	西十八	十八	吳留余	1,125畝	0.065両	石
2	八年下忙	〃	〃	〃	〃	〃	
3	八年漕米	〃	〃	〃	〃		0.122
4	八年下忙	〃	〃	〃	1,991	0.115	
5	八年漕米	〃	〃	〃	〃		0.216
6	八年上忙	中十八	六	〃	3,680	0.209	
7	八年下忙	〃	〃	〃	〃	〃	
8	十年下忙	三都	五	増記	5,233	0.303	
9	十年漕米	〃	〃	〃	〃		0.523

右の二種の易知由単は、一種は「中華民國八年上忙易知由単」「中華民國八年下忙易知由単」、もう一種は「中華民國八年漕米易知由単」、要するに一年二期の地丁銀の上下忙銀の易知由単と漕米漕糧に対する易知由単の二種類となり、種類形式としては二種三類となる。なお、中華民國十年分は漕米と下忙銀の二種であり、内容文章等は上記八年分と全く同じである。さて、まず、若干の備考註記をしておけば、(一)内の字句、数字は手書き、もしくは印版で記入したもの、(二)内は商業数字、いわゆる蘇州数字で墨書したものである。他の文字数字は木版で予め印刷したものである。二種の易知由単はいずれも吳県知事、知県が発給した納税催促書であるが、納入済みとなるとその内の一部分が領収書として納税者―業戸・糧戸の下に帰ってくる。地丁銀上・下忙銀と漕米漕糧の違いは税目と徴収物品の差異だけである。ただし、清末ではなく、中華民國時代になつていたので、曆は新曆の太陽曆を基準とし、旧曆・太陰曆は(一)内に別記されている。それ以外の正項税高に対する各種付加税や徴収期限超過にたいする付加税などに変更はない。それよりも驚くべきことは紳士等の税代納の包攬が辛亥革命後の民国時代でも存続していることである。そのことは、清代徴税制度における包攬の強固な存続を示すと同時に、包攬を制度の核として成立する租税制度の民国時代への継承を物語っている。ただし、以上

は二種の易知由単の記載文面それ事態が示すものではなく、直接に納税義務の無い土地、地片の易知由単が租棧に存在するので知られる事柄である。ところで九州大学所蔵『辨糧底冊』に挟まった、ないし添付された「易知由単」は本来何枚在ったかは不明である。現存の由単を一覧にしてみると上欄の表のようになるが、これによれば、地片毎に整理すると、第一地片が西十八都十八図糧戸呉留余の面積一畝一分二厘五毛の地片で中華民國八年上忙銀・下忙銀税額六分五厘及び同年漕米一斗二升二合のものが三枚、第二地片が西十八都十八図糧戸呉留余面積一畝九分九厘一毛八年下忙銀一錢一分五厘及び同地片八年漕米二斗一升六合の二枚、第三地片は中十八都六図糧戸呉留余面積三畝六分の八年上忙銀・下忙銀二錢九厘の二枚、第四地片が三都五図糧戸増記の面積五畝二分三厘三毛の中華民國十年下忙銀三錢三厘、同年漕米五斗二升三合の二枚、以上の四地片九枚となる。要するに一年の一地片については地丁銀が上忙・下忙の一種二枚、漕米一枚の三枚の易地由単がある。四地片であれば計十二枚となる。

二種、というより二種三式の易知由単の文面は、上忙銀・下忙銀、漕米の各納税関係を示すが、この伝票が基礎となつて租棧における呉姓各業戸の地丁銀、漕糧の納税関係簿冊が作成される。九州大学所蔵馮林一棧関係簿冊では、(一)『吳邑銀漕有閩副冊』、(二)『吳邑無閩辦糧冊』、(五)『辦糧底冊』、(六)『長吳各都図漕米総冊』などがそうした簿冊である。なお、租棧が各業戸の納税代行を開始する以前に、各納税義務を示す易知由単が租棧に來たことを確認する簿冊が作成される。(八)『長邑經号田単底冊』や(七)『長邑各都図無閩田単冊』という田單冊の類がそれである。以上に加えて、租棧機構の中国地主制度として最も管理化され、機構強化された面として、業戸―地主に代わつて佃戸、小作人から佃租、小作料を徴収する点がある。その簿冊が(三)・(四)『長吳佃冊』(両簿冊は同名表記)、(九)『長邑小租簿』という簿冊である。ここに馮林一棧関係簿冊が徴税関係と小作関係とを、同一地の地片について同時に示す史料であるという所以がある。けだし、その諸関係のマスターキー、

親鍵的位置に所在するのが二種の易知由単の存在であることが判明したのである。

(二) 馮林一棧簿冊における納税割引き

清末江南地方の徴税の実際には、徴税額面の何%かの割引きが適応されていた。ただし、この事實は必ずしも一般的に知られているものではなく、また割引きの理由は何か、何が契機となってその慣行は開始され、またその始期は何時か等々、これまで解明されているところは少ない。村松祐次教授も上下忙銀、漕米の割引きに気付き、その事實は指摘されているが、それが有する意義、問題点などには何ら注意を払っていない。そこでまず、事例を挙げよう。

九州大学所蔵馮林一棧関係簿冊の史料(二)『吳邑無閏辦糧冊』の冒頭部の二丁、一都九図には、

一都九図

官則拾三畝九分四厘 無閏単収 吳経鋤 原高德成

無閏^{申畝}_{上下忙} 八錢六分七厘 92入一石三斗一升七合
84入(実) 七錢二分八厘 無閏漕米 一石四斗三升一合

官則參畝七分 無閏単収 吳桂蔭 原林棟華

無閏^{申畝}_{上下忙} 二錢三分 92入三斗五升
八錢九分三厘 無閏漕米 三斗八升

この簿冊の作成年次は光緒二十五年(一八九九)であるが、傍線部の手書きの中国商業数字で書いた記入はほ

とんど完全に近い。さて、右の84入は八四%実徴、つまり一六%割引きであり、92入は漕米原額の九二%実徴、八%割引きを示す。「入」は実徴の実際の商号略字である。この割引きがいかなる計算によつたものか、念のため試算してみると、右の官則拾三畝九分四厘は、上忙銀額八錢六分七厘、八四%の額は七錢二分八厘で下忙銀の表示額に一致する。同地の漕米は原額が一石四斗三升一合、九二%は一石三斗一升七合、同様に92入表示額となる。第二の官則参畝七分の土地の税額は、上忙銀が二錢三分でその八四%は一錢九分三厘で下忙銀の表示と合致する。漕米も同様に三斗八升の九二%は三斗五升となる。なお、以上の計算では位取り四桁を四捨五入している。なお、事例を挙げよう。九州大学所蔵史料(七)『長邑各都図無閭田单冊』の冒頭部一都一図の冒頭数葉の地片記事は次の通りである。

一都一図

官則 (五畝式分五厘八毛) 無閭单収 吳経鋤 原戸趙菊寿 卯五十八

無閭_{下上}忙串截 無閭漕米 五斗七升串截

官則 参畝四分八厘二毛 無閭单収 吳経鋤 又 同

無閭_{下上}忙五錢〇六上戸併串截 無閭漕米 三斗七升七合串截

五錢〇六 94 実 四錢七分七

官則 陸畝七分四厘 無閭单収 吳胎善 原戸談慶順 丙八十二

無閭_{下上}忙 無閭漕米 七斗三升串截

官則 捌畝五分九厘七毛 無閭单収 吳胎善 又 同

無閭_{下上}忙 無閭漕米 九斗三升一合串截

官則 参畝三分式厘五毛

無閏单収 吳胎善

又 同

無閏_{下上}忙

無閏漕米

三斗六升串載

官則 一畝三分

無閏单収 吳胎善

又 同

無閏_{下上}忙

無閏漕米

一斗四升一合

官則 式畝四厘五毛

無閏单収 吳胎善

又 同

無閏_{下上}忙 兩二錢七合四
一兩二錢七分四

5戸併

無閏漕米

二斗二升二合

官則 一畝六分九厘

無閏单収 吳裕仁

原吳守倫忠徐中和 申三十一

串載

無閏_{下上}忙 九分九
九八 94 実 九分三

無閏漕米

一斗八升三合

串載

官則 陸畝三分三厘七毛

無閏单収 吳裕仁

又 徐秉記 同

串載

無閏_{下上}忙 三錢六分七
三錢六分七 94 実 三錢四分四

無閏漕米

六斗八升六合

串載

以上についても念のため検算してみると、やや誤差のあるものも見られるが、概して計算は正確である。その計算式は官則参畝四分八厘二毛についてみれば、上忙銀五錢〇六厘、下忙銀五錢〇六厘とした下忙銀額の九四％で四錢七分七厘とした。なお、この史料(七七)『長邑各都図無閏田单冊』の作成年次は光緒十七年という記載がある。それに対して、村松祐次教授が紹介した東洋文庫所蔵の3、『長邑無閏田单冊』は光緒二十年の制作であつて、前記光緒十七年冊と同じ冒頭一都一図分を挙げると次の通りである(村松祐次著『近代江南の租棧』四六〇

一六三頁、参照)。

一都一圖

官則五畝貳分五厘八毛 無閏单収 吳経鋤 原趙菊寿 卯五十八

無閏_{下上}忙 三錢〇五串截
93入二錢六分二厘串截
無閏漕米 五斗七升串截
93入五斗三升

官則參畝四分八厘貳毛 無閏单収 吳経鋤 又 又

無閏_{下上}忙 二錢〇二串截
93入一錢七分四厘串截
無閏漕米 三斗七升七合串截
93入三斗五升一合

官則陸畝七分四厘 無閏单収 吳胎善 又 又

無閏_{下上}忙 三錢九分串截
93入三錢三分〇串截
無閏漕米 七斗三升串截
93入六斗七升九合

官則捌畝五分九厘六毛 無閏单収 吳胎善 又 又

無閏_{下上}忙 四錢九分八厘串截
93入四錢二分八厘串截
無閏漕米 九斗三升一合
93入八斗六升六串截

官則參畝三分二厘五毛 無閏单収 吳胎善 又 又

無閏_{下上}忙 一錢九分三厘串截
93入一錢六分六串截
無閏漕米 三斗六升
93入三斗三升五合

官則壹畝參分 無閏单収 吳胎善 又 又

無閤_{下上}忙_忙 七分〇串藏
93入六分〇串藏

無閤漕米一斗四升一合 串藏
93入一斗三升一合

官則式畝四厘五毫 無閤単収 吳胎善 又 又

無閤_{下上}忙_忙 一錢一分八厘串藏
93入一錢〇一厘串藏

無閤漕米二斗二升二合 串藏
93入二斗〇一八

官則畝陸分九厘 無閤単収 吳裕仁 原吳守倫忠徐中和申州二

無閤_{下上}忙_忙 九分九串藏
93入八分五串藏

無閤漕米一斗八升三合 串藏
93入一斗七升

官則陸畝參分三厘七毛 無閤単収 吳裕仁 又 徐秉記 又

無閤_{下上}忙_忙 三錢六分七厘
93入三錢一分六

無閤漕米六斗八升六合 串藏
93入六斗三升八

光緒十七年では九項中三項しか割引き表示が見られなかったが、光緒二十年では九項全ての地片について割引き計算が確認される。以上についても念のために検算してみると、驚くべき結果が出た。すなわち、一都一閩官則五畝二分五厘八毛の地片の上忙銀額は三錢〇五厘、下忙銀は二錢六分二厘となっているが、計算では上忙銀の九三%で二錢八分三厘六毛五糸となつて合致しない。しかし、念のためその二錢八分三厘六毛五糸の九三%を出すると二錢六分三厘七毛九糸と、やや下忙の表示額に近い額数が得られる。さらに、二錢八分三厘の九三%とする二錢六分三厘となつてかなり近付く。同様に官則參畝四分八厘貳毛は上忙銀額二錢〇二厘であるので、その九三%額が一錢八分七厘、さらにその九三%額は一錢七分四厘と全く一致する。以下の各地片も同様である。以上から光緒二十年の割引計算では表示割引率が二度適用されて計算されていることが知られるのである。それはど

うしてかといえ、割引が下忙銀だけでなく、上忙銀にも適用されたと考えられる。しかし、実際には上忙銀には割引が適用されていないので、下忙銀のみ二度割引計算をしているのであるが、いずれにしても厳密性を欠くもので一種の「朝三暮四」の感じがする。

{三} 『長邑小租簿』と馮林一棧との関係

史料(九)『長邑小租簿』と呼ぶ簿冊がある。これが馮林一棧関係簿冊と如何なる関係のある簿冊かこれまで検討していなかった。その内容の紹介を兼ねて次表を作成した。紙幅の都合により各都図ごとに佃名、佃作面積、同租米額、力米数、等を合算し、一畝当たり租額、力米数等を計算した。当該佃作地の所属圩、坵は各都図ごとに列挙した。

これによると、東六都下北五図から中十八都三十図に至る地片の佃作地が確認され、その一畝当たりの租米額は大体一石内外、力米は四升と分かった。なお、全体は四群に大別されていることも知られる。ただし、その分類の目的等は不明である。なお、全体的理解を得るために各群ごとに都数、図数、号数、佃数、面積数、租米数、力米数、圩数、坵数を合算して一覧にしてみよう。

これによれば都是一二、図は八三、圩一五〇、坵七六八とその地の関係佃作地の散在性が知られ、それを佃作する佃戸も延べ九九五人の多数に上ることが確認され、逆に各佃戸の小作地の零細性も知られた。面積総額二〇四二畝、租米総額二〇五二石、力米八二石余となった。一畝当たりは一石、力米四升も確認された。

さて、『長邑小租簿』と馮林一棧関係簿冊との関係であるが、『長邑小租簿』の下十四都下二図、及び同都二十三図等には、東洋文庫蔵史料10『長邑図無間上下忙漕米冊』、九州大学蔵史料(七)『長邑経号田单底冊』との対応が次の如く確認される。

第3表 『長邑小租簿』都図集計表

都	図	号	号数	佃名	面積(A)		入米(B)		力(C)		B/A	C/A	圩名	坵
					畝	石	石	石	石	石				
東六	下北五	元-3	3	願阿盧、周阿毛、願阿狗	31.393	30.332	1.256	0.966	0.040	物、意、操			37、40、41、46、50、53、54、57、57.61、62、63	
七	二	4-8	5	朱阿奎、張阿崑、王宝和、願銀龍、黃毛觀	8.757	9.098	0.350	1.039	0.040	陪、鞏、振、纓			15、25	
		9-14	6	周双福、王增保、吳双喜、馮阿双(呂銀保)、朱阿虎、朱阿春	20.560	20.394	0.822	0.992	0.040	內、承、杜、槐			1、3、39	
十一	四	15-18	4	李桂堂、張蘭亭、朱連元、王金虎	18.225	18.757	0.729	1.029	6.040	元、珠、祢			8、22	
十一	五	19-20	2	沈三喜、浦阿松	6.681	6.872	0.267	1.029	0.040	羽				
十一	中八	21	1	金長觀	8.980	8.811	0.359	0.981	0.040	遜			19、20	
十一	下八	22-25	4	陸虎觀、浦蘭、毛二、金喜	13.195	14.525	0.528	1.101	0.040	單、戎、湯				
十一	十一	26	1	錢金壽	4.400	4.562	0.176	1.037	0.040	暑				
十二	上一	27-33	7	願和尚、錦泉、陸虎觀、海和(阿根)、沈阿土、願春泉、沈裕泉	28.920	29.798	1.157	1.030	0.040	同、氣			12、13、33、34、35、43、58、59、126、130、218	
十二	下一	34-38	5	莫鳳岐、願四觀、如邦、金觀(許曉山)	13.581	13.482	0.993	0.589	0.043	懷、兄、弟			22、29、31、333、341、374	
十二	二	39-41	3	吳桂林、朱招福(陸虎觀)、曾喜						隱、性			28	
十二	三	42-49	8	吳小弟、沈天保、吳天喜、吳金竜、沈天宝、吳毛三、孫阿長、孫阿多、朱阿狗、朱金宝、朱狗觀(即朱阿全)、朱阿虎、平阿全	34.598	37.239	1.076	1.386	0.040	爵、既			57、65、99、100、102、109、110、111、117	
十二	四	50	1	何全	6.060	5.757	0.242	0.950	0.040	葉				
十二	五	51、52	2	華成衣(王金觀)、張銀桂	9.000	9.874	0.360	1.097	0.040	書				
十二	上九	53-55	3	俞桂根、湯裕玉、吳正德	10.793	11.224	0.432	1.040	0.040	潤、爵			100、108、111	
十二	下九	56-59	4	張世金、朱慶和、敬松、李阿根	14.354	14.487	0.612	1.009	0.043	璿			2、22、41、90、92	
十二	下九	60	1	沈新觀	0.595	0.490	0.024	0.824	0.040	樓			44	
十二	十二	61-71	11	包金福、阿虎、紀福、錦山、願寅山、包金根、楊二觀、包阿双、汪進德、李龍觀、陸李明、薛三虎	27.181	29.593	1.086	1.089	0.040	涇、殿、陸、弁			39、41、53、54、55、56、60、88	

都	図	号	号数	佃名	面積(A)	入米(B)	力(C)	$\frac{B}{A}$	$\frac{C}{A}$	圩名	坵
十二	十九	72-81	10	毛三、李阿虎、陸阿宝、三寿、采文、阿虎、阿三、尤阿和、李阿根、李根全、李三宝	24.841	26.798	1.132	1.079	0.046	京、明	17、58、77、89、114、141、152、187
十二	二十	82	1	傅元敖(子老虎)	8.099	6.746	0.32	0.833	0.040	投	98
十二	二十一	83、84	2	任新觀、丕文	11.500	10.142	0.460	0.882	0.040	獸	422、423
東十三	上南十	85-89	5	王叙方、周永觀、王四觀、朱阿春、周漢發	4.218	4.193	0.158	0.994	0.037	写、画、仙	56、77、106、535
西十三	下十一	90-92	3	馬和觀、貽士、沈阿高	3.512	3.785	0.140	1.078	0.040	筵、席	40、154
十二	十六	93、94	2	陸文炳、大宝	3.800	3.729	0.152	0.981	0.040	車	32、47
十二	十八	95-98	4	朱大宝、朱毛宝、張二觀、張銀觀、毛秀法、吳和尚、姚文山	3.758	3.989	0.150	1.061	0.040	綺、漢	7、51、67
東十三	下北十	99-102	4	周元祥、茅炳奎、鄒惠其、王有法、海泉	6.678	5.637	0.267	0.844	0.040	霸	56、105、106、147、148
東十三	十二	103、104	2	金慶觀、福觀	1.000	1.094	0.040	1.094	0.040	筵	322、323
西十三	一	105-108	4	范小弟、周狗觀、徐方孚、庭榮、姚才卿	11.384	11.848	0.456	1.041	0.040	九、蹟、泰	6、43、60
西十三	三	109-127	19	吳方廷、仰山、子卿、桂三、浦阿虎、華士梅、孫招福、浦裕彩、仁山(孫招福)、戴阿金、金啓明、蔡三寿、四、三觀、沈宝觀、吳壬林、吳云觀、朱雪山、周金福、桂福、明山	50.944	52.580	2.091	1.032	0.041	竄、用、軍	35、79、106、112、115、118、137、170
西十三	四	128-131	4	華錦率、居尚德、蔣金觀、賴五觀	4.019	3.870	0.160	0.963	0.040	形	336、337、372
西十三	五	132-135	4	江惠來、俞念椿、王鳳祥、陸云來	6.036	5.756	0.242	0.954	0.040	更、江、朱、錢	22、107、111、142、150
西十三	上六	136、137	2	錢銀德、尤云亭	1.156	0.896	0.046	0.775	0.040	煩	392、416
西十三	七	138-144	7	華世榮、延玉、談仁觀、華文榮、談世金、談桂德、曹梅堂、王鳳祥、王其林	17.426	17.370	0.696	0.997	0.040	遵、盟	25、33、34、35、89、137、144、145
西十三	上八	145-147	3	史香梅、浦鳳來、沈文標、郁孝德	5.026	5.308	0.201	1.056	0.040	途、踐	6、39、158、163
西十三	下八	148-152	5	金阿二、張和尚、張永先、沈春江、双觀、根方	2.845	3.044	0.114	1.070	0.040	土	10、18、61、77
西十三	十四	153-159	7	盛玉章、大四、嚴小弟、馮阿坤、璩阿太、盛金觀、徐小龍、二觀、星觀、阿金、錢海觀、巧觀	7.637	8.088	0.305	1.059	0.040	瑟	70、72、73、77、85、109
西十三	上十五	160	1	韓玉行	1.979	1.950	0.079	0.985	0.040	纓	118

西十三	下十五	161-168	8	朱春泉、李梅生、闕叙堂、采亭、唐阿四、黄金大(朱和尚)、朱增福(和尚)、丁阿和、朱茂春	12.431	13.208	0.495	1.059	0.040	輕、茂	7、30、107、111、112、170
西十三	十六	169-170	2	陸品甫、周惟新	1.490	1.590	0.060	1.067	0.040	起	101、296
西十三	南十七	171-176	6	闕三和、巧觀、錢万春、張銀桂、周阿元、周才卿、阿元、王阿仁、阿龍、黃炳文	6.504	7.037	0.260	1.082	0.040	公、合、輔	41、57、80、163、235
東十三	一	元-18	18	陸万興(都士德)、馬冀良、沈三、吳兆基、李孝四、秦仲、陳再包、惠來、李永方、張耀山、李道觀(云山)、仁德、慶觀、王晋法、徐少亭、張金福、查在春(爰桂廷)、秦培生	19.962	20.290	0.798	1.016	0.040	亭、東雁、西雁、南城、北城	14、25、31、40、48、50、56、63、65、74、86、88、93、103、287
東十三	四	19-46	28	俞少卿、顧玉書、毛金觀、李念橋(月脚)、兆祥、曾祥、茂、徐少亭、巨桂香、永春、雲山、効山、金洪山、查阿閔、林桂山、李介炳、奚安祥、朱芝卿、鄒福觀、俞安祥、寿祥、高景亭、林一鳴、任天觀、周方來、黃曉峰、周鼎善、高雲山、黃岳山	31.794	32.099	1.270	1.010	0.040	田、池	16、24、31、71、88、94、100、129、139、147、171、180、187、190、192、202、204、207、214、293、294、297、356、362
東十三	十三	47-58	12	張玉樓、鄒虎金、莫五觀、再來、玉山、双寿、根觀(成金)、嚴永昌、裕德、毛五福、顧培榮、黃永法、五觀	14.665	13.898	0.587	0.948	0.040	物	37、794、799、917、936、946、988、1008、1064、1065、1071、1408
東十三	十四	59-71	13	陳竹堂(薛鳳梧)、王三和、大觀、閔大、曾福、毛和尚、錦亭、岳甫、潘大金(晋卿)、秀香、毛上全、談立春、桂榮	12.917	12.688	0.517	0.982	0.040	多	113、114、276、279、384、403、409
東十三	十五	72-79	8	徐阿五、柳竹峯、桂章、顧和觀、張和觀、朱早觀、查子香、李敖	6.418	7.235	6.256	1.127	0.040	士	56、129、169、196、325、637
下十四	上二	80-104		鄭正初、劉鳳鳴、興德、春陽、効初、蘭廷、友卿、桂廷、孫玉丈、爾章、爾康、景亭、劉正元(蔡云龍)、正倉(再昌)、正新(仁定)、陳心田、念如、劉田華、周仁卿、義元、陶耕祥、元祥(子、礼泉)、劉阿天、姚德昌、陳在春、鄭虎觀、陳銀觀、朱載占	60.352	62.051	2.400	1.028	0.040	東門口、日、月盈	1、16、19、24、27、41、63、71、72、95、137、138、152、153、146、161、169、174

部	図	号	号数	佃名	面積(A)	入米(B)	力(C)	$\frac{B}{A}$	$\frac{C}{A}$	圩名	坵
下十四	下二	105-110	6	陳福觀、任啓堂、王壬方、永四、秦宝華、再新、陳硯香	10.972	10.335	0.439	0.942	0.040	字、宙、張	1、10、11、33、59、79、81
下十四	二十三	111-124	14	朱新德、承租(子惟藩)、秦見堂、友良、胡耕山、張男觀、五觀、朱硯先、林宝善、孫大榮、陳云階、又、陳秀德(孫云階)、李鳳亭、孫國春	29.975	29.499	1.200	0.984	0.040	東城、西城、昆	13、29、30、35、39、40、201、242、297、298、300、302、306、307、349、374
東十三	八	125	1	沈廷華	0.500	0.535	0.020	1.070	0.040	石塞	232
下十四	三	126-153	28	徐榮廷(子伯和)、寧回觀、關柏霞、漢如、念橋、祥賢、虹橋、林嘉吉(丁寿泉)、香周、丁方和、凌万里、少巍、松亭、朱天祐、徐耕香、陳和觀、查蔭喬、子卿、云峰、猛將社田、查桂喬、尚榮、仁祖、念橋、梧生、林三觀、高玉山、朱大章、林毛觀、陳敬亭	63.097	63.665	2.524	1.009	0.040	石塞	2、31、40、43、67、68、91、108、109、122、209、210、250、265、344、345、355、358、364、455、481、514、515、522、541、582、585、586
下十四	五	154-175	22	彭瑞春、張春和、文林、朱云山、趙松洲、王才卿、陸松坡(子仰山)、周廷華、朱恂卿(廷璋)、俞友梅、周重華、春華、徐時周、周安全、文華、姚正開、馮岐山、高星曜、楊永法(王蘭春)、朱福齋、張芹軒、金桂春(朱福參)	72.363	68.438	2.895	0.946	0.040	雞	18、191、203、251、252、305、306、328、336、339、341、391、406、407、446、482、507、579、581、672、673、710、722、725
下十四	六	176-188	13	顧文數、万明、云高、貞祥、蘇玉仙、趙松亭、云亭、景亭、史永泉、趙本觀、雲亭、孫鼎奎、熊祥、趙履祥	36.836	37.304	1.419	1.013	0.039	鉅、遠、遼	10、14、15、20、43、44、53、59、90、101、154、155、164
下十四	七	189-193	5	關洪昌、吳鳳池、張壽春、徐俊卿、兆章、	15.600	14.979	0.626	0.958	0.040	碣	121、125、385、386、387
下十四	上九	194-199	6	顧四福、蔣礼卿、智卿、王瑞昌、寿夫、任四觀、徐佩德	20.255	20.516	0.811	1.013	0.040	庭、西畝、西雁	16、17、18、56、58、59、130、131、157
下十四	二四	200-206	7	孫鳳玉、金廷方、王祥言、濮菊村、王松山、陳紀昌、紀昌、早觀	17.630	17.492	0.706	0.992	0.040	紫、西塞	2、13、78、79、280、316

下十四	上二五	207-215	9	吳仁齋、沈松山、闕侍堂、郭景林、応梅、元順、霞林、春林、張和尚	18.819	19.114	0.842	1.016	0.045	碓	1、43、341、459、493、494、495
下十四	下二五	216-236	21	周明如(闕玉堂)、双喜、墨卿(鳳鳴、榮春、廷梅)、李明王、文年、周曉惟(恂卿)、周宝善、金和、金魁、立山(子良宗)、茂德(子良邦)、周新德、德仙、亦善、仁觀、世金、国才、協廷、景廷、三元、朱大宝、闕榮江、松亭(才臣)、周再卿、徐在田、周允祥	54.088	54.511	2.164	1.008	0.040	池	24、27、40、41、53、54、56、156、215、269、326、331、332、356、358、389
中十八	六	元-21	21	黄采如、鄧進德、秀堂、小弟、馬毓良、楊如村、鄧茂生、士奎、少廷、秀山、再廷、邱在玉、陸竹香、袁叙華、邱思春、鄧瑞坤、召堂、沈福昌、壽昌、福昌	74.918	75.165	2.745	1.003	0.037	祀、稽	7、12、13、14、17、18、31、59、61、72、75、99、105、122、126、127、140、141、145、172、178、192、193、210、285、290
中十八	七	22、23	2	徐增江、学賢	4.600	4.492	0.184	0.977	0.040	南蒸	165、218
中十八	八	24	1	徐春桂	4.303	4.315	0.172	1.003	0.040	北蒸	232
中十八	十	25-52	28	沈克昌、蔡根英、徐渭法、是福、蔡万昌、毛雪香、周雪堂、陳煥亭、耕梅、曜昌、朱進德、柏如、周培勝、徐阿七、王升敖、朱其事、朱正声、琴峰、嚴桂亭、陳念橋、潘安山、介周、介帆、周梅卿、耀卿、徐金甫、徐又甫、永法、何根梅、周松亭、張阿全	86.973	84.531	3.476	0.972	0.040	答	124、125、317、345、489、553、616、703、764、706、708、709、807、808、809、835、838、839、967、987、995、999、1019、1022、1069、1095、1156、1184、1226、1231、1232、1241
東十八	十二	53-92	40	陸洪文、陳松濤、馬在林、翁定珍、尤仰吾、高召采、耀采、再良、方金觀、曾達、云香、六觀、平祖堂、高仲良(玉竜)、孫月州、小山、方裕春、周阿大、王殿邦、小弟、高才方、子興、玉林、玉廷、永泉、胡云亭、金孝三、高恒玉、仁山、定奎、紹發、興法、陸桂方、世興、元、觀正興、和尚、惠堂、方錦堂、施田華、高岳来、云梅、孫啓三、朱大宝	67.291	67.695	2.754	1.006	0.041	驛、驢南、驢北驢、西	1、2、3、4、5、9、10、11、12、13、14、15、22、23、28、31、51、56、57、62、80、82

都	区	号	号数	佃名	面積(A)	入米(B)	力(C)	$\frac{B}{A}$	$\frac{C}{A}$	圩名	坵
東十八	十三	93-129	37	凌士亨、陸永和、奚召昌、凌竹香、凌大昌、招福、朱大宝、万方、永方、凌太和、陸金祥、鶴山、奚召昌、彩章、陸耀文、金觀、潘朗峰、張秀堂、永堂、春喬、秀堂、相堂、九率、周壽爵、蓮香、張見三、興堂、礼堂、金桂和(翁鳳伯)、蘭香、周効章、仁齋、金桂亭(仲園)、張國祥、沈安亭、袁克明、金月佩、怡三、于殿王、廷玉、巨洪法、袁顯廷、鄧永法、凌正甫、兆梅、許景方	65.673	67.929	2.028	1.034	0.040	驟、駭	9、14、15、17、26、46、49、51、52、79、80、81、86、89、93、115、118、119、121、122、129、131、132、137、145、146、150、151、153、183、188、244、250、275、266、279、280、281、284、287、293、302、307
東十八	十四	130-144	15	沈愛甫、施永立、蘭香、心堂、張明堯、嚴明山、于再良、馬大宝、德華、施紹亭(談秀卿)、念亭、杏園、施岐山、文華(錦堂、啓堂)、愛卿	42.846	43.677	1.714	1.019	0.040	驟	11、22、23、29、31、22、33、39、49、51、52、53、141、142
東十八	十五	145-155	11	嚴金德、陸才方、邱云山、沈七觀(方明)、王景文、干培梧、沈明福(方明)、蔣集成、袁喜觀、仲茂、德明、梅村、念梧	21.076	21.333	0.843	1.012	0.040	執	71、147、153、156、166、170、187、407、408、410、412
東十八	十六	156-164	9	龔四喜、沈鳳元、龔子春、任月和、龔洪昌、松喬、任怡昌、順昌、云階、于小初	17.971	17.782	0.718	0.989	0.040	骸	1、162、186、238、456、457、502、503、654
東十八	南十七	165-170	7	戴榮堂、何永茂、朱益舟、何耗觀(仲鄉)、許称心、戴根安	12.940	12.475	0.518	0.964	0.040	南審	1、4、69、85、88、92、238
東十八	北十七	171-176	6	高裕方、金壽、龔桂觀、双福、心州、孫天喜、沈天觀(阿根)、四元	19.661	69.175	0.787	0.975	0.040	北審	30、42、43、166、354、355
東十八	三十五	177-190	14	張云廷、硯廷(袁如山)、見堂、楊桂堂、顧新安、劉錦堂、袁鼎和、談称心、陸清如(袁云甫)、徐鶴九、金才春(子永方)、施巧觀、福卿、培堂、耕三	24.957	26.381	0.998	1.057	0.040	骸西、熱、顯驟	6、7、13、22、27、38、57、59、60、66、73、89

西十八	三十一	191-227	37	張徳安、季安、葉錦泉、啓堂、林任香、憲堂、李在徳、友良、林所斎、鳳華、葉茂春、裕春、黃祥卿、林雨卿、万邦(葉茂春、裕春)、方来、云橋、葉曉峰、俊徳、陸省三、葉竹亭、友蘭、趙松山、年山、徐步敖、周柏卿、永山、鳳樓、存樓、耀廷、景来、楊正邦、周康廷、葉国豊、春堂、馬錦秀、憲章、周岐山、葉惠来	99.646	100.081	3.986	1.004	0.040	再、拝、棟	8、36、41、48、50、51、58、59、76、81、88、89、104、159、160、174、196、197、208、209、212、227、229、230、246、255、262、267、272、276、324、348
北十九	一	228-233	6	儲長発、宋培香、干祥観、儲祥安、宋憲宗、周如章、龔正香	5.427	5.501	0.217	1.014	0.040	藏、閨	44、79、95、121、140
北十九	四	234-239	6	沈洪昌、王四観、謹占、芸占、沈茂春、張承啓、仲和	8.839	9.449	0.353	1.069	0.040	金	40、56、119、147、150、151
北十九	五	240	1	龔錦方	6.595	5.145	0.264	0.780	0.040	霜	208、209
北十九	上八	241-247	7	周阿云、陸早二、沈六観、李興大、周大観、嚴魁、張小弟	21.511	22.197	0.860	1.032	0.040	蕪蕉、財賦、趙段	15、17、85、87、92、120、126
北十九	下八	248	1	朱仲卿	1.781	1.926	0.071	1.081	0.040	村前	88
西十八	十一	元-19	19	王和卿、性魯、文卜、翰卿、張仰山、馮百和、陳蘭田、吳慎之、翁尚之、王錦昌、栄卿、云茂、趙漢卿、沈心田、方田、朱金観、又新、王杏春、鄭相堂、見堂	39.207	38.109	1.550	0.972	0.040	簡、要	8、117、142、250、251、423、451、572、612、624、670
西十八	十八	20-29	10	沈士坤、王星斎、許富堂、王仁卿、沈宗海、顧春坡、尚徳、正加、文標、洪標、少云	49.305	59.357	1.972	1.001	0.040	東隣	7、80、140、142、149、155、164、280、288、354、369
西十八	十九	30-77	48	朱鳳章、廷琛、鄒松華、金虎、耕和、友梅、耕香、王再良、松亭、三福、坤、松林、晋良、文玉、福堂、立堂、孫竹卿、趙和観、曉松、桂亭、曉峰、慶仁、慶高、陸慶高、明岐、顧桂香、万倉、桂山、竹山、錦洪、魏亮采、桂堂、定標、栄標、史叙春、鄒曉山、任子峰、桂軒、掌生、桂卿、養和、再賢、俊智、洪達、有達、邦達(正明)、栄亨(顧香)、又(雪香)、又(秀香)、金福、戈慶順、裕泉、双金	94.426	94.209	3.773	0.998	0.040	西隣、西浜、董浜、横濃、裡浜	40、104、163、284、329、332、334、337、338、343、374、456、507、508、535、536、537、538、540、541、542、543

都	園	号	号数	佃名	面積(A)	入米(B)	力(C)	$\frac{B}{A}$	$\frac{C}{A}$	圩名	坵
西十八	上二十	78-134	57	顧紹倉、戴洪昇、云亭、陳桂香、沈友亭、懷揚、朱福亭、茂元、学廷、煥廷、進山、劉紹庭、王南香、新村、林振祥、友山、史佩安、鄒錦廷、榮廷、徐双觀、世和、望柳、云亭、万華、金觀、百如、社公用、周閔慶、潘松元、沈心齋、陳怡德、陳思九、陳和觀、蔡玉田、相中、孝仙、鳳江、根保、云江、洪法、秀法、松春、惠來、黃世觀、增寿、顯廷、香廷、效先、效章、林景山、銀福、上珍、梅如、梅廷、其祥、季道山、双林、世昌、福昌、馬才祥、榮觀、虎、相几、宝生、宝林、計洪業、廷章	145.228	149.414	6.022	1.029	0.041	懼、躍	65、71、93、100、101、104、129、144、145、159、176、179、200、201、203、205、207、219、243、249、250、275、317、328、375、378、380、383、387、412、433、441~466、469、473、478、479、481、513、514、521
西十八	下二十	135-156	22	林云岐、惠福、桂香、許登發、史小村、徐雪香、世高、小春、侯鶴云、徐茂春(子礼卿)、襄卿、史錫觀、許世觀、和尚、世觀、耕云、天元、馬令怡、吳正加、正香、景山、陸小弟、王再興、盛菊方、史虎觀	54.218	53.742	2.178	0.991	0.040	恐	60、131、173、219、226、234、312、335、437、438、444、451、495、511、513、537、538、539、540、614
西十八	二十一	157-186	30	戴怡來、孫喜春、顧永泉、王傳、張蘭亭、朱正英、戴弟、陳勝元、陳国帆、朱大春、文華、裕玉、金宝山、朱文華、施狗觀、袁玉岐、玉庭、侯培觀、金觀、金梅堂、黃茂如、金加梅、史金、侯巧福、桂軒、張宗良、顧錦山、明德、俊甫、世田、明谷、金全觀、侯培香、世福、顧培荃、善香、陳鼎元、金楷亭	52.548	51.355	2.104	0.977	0.040	惶	6、7、13、14、16、17、18、20、25、28、30、36、37、38、43、44、45、55、65、66、70、92
西十八	上三六	187-202	16	呂惠泉、姚云卿、翁德周、史念春、李俤生、紹生、金才三、王惟良、吳松山、唐二觀、三觀、蘇錦春(仰敏)、鄒蘭香、子香、任錦方、趙招根、翁明善、耕和	27.067	26.357	1.084	0.974	0.040	東晟	57、94、96、182、205、208、290、407、418、426、510

西十八	下三六	203-210	8	杜景春、景華、浦万良、王仁卿、杜步堂、福堂、王実甫、蓮亭、松亭、顧全	22.855	22.726	0.914	0.994	0.040	西踐	131、132、134、135、147、266、312、315、385、57、345、402、442、530、686、708、718、733、752、777、792、797、805、809、864
中十八	三十	211-229	19	嚴春漁、紀永春、張培堂、黃裕堂、王景亭、菊村、惠村、嚴支岐、龔士福、趙妹觀、仁卿、龔祥福、小弟、甄春泉、沈竹山、嚴耕堂、万正方、王二觀、嚴耕山、万載春、龔惟高、怡高	30.646	29.256	1.228	0.955	0.040	顧	

第4表 『長邑小租簿』四群集計表

	都 数	図 数	号 数	佃数(D)	面積小計(A)	入米小計(B)	果果小計(C)	$\frac{B}{A}$	$\frac{C}{A}$	坪 数	坵 数	$\frac{A}{D}$
I	7	39	176	197	453.596 畝	463.953 石	18.497 石	1.023 石	0.041 石	74	149	2.302 畝
II	2	17	236	261	486.843	484.609	19.474	0.995	0.040	34	213	1.865
III	4	18	248	274	587.008	589.249	23.288	1.004	0.040	30	243	2.142
IV	2	9	229	263	515.500	514.525	20.825	0.998	0.040	12	163	1.960
計	12	83	889	995	2042.947	2052.336	82.084	1.005	0.040	150	768	2.053

これにより『長邑小租簿』が馮林一関係地の小作関係を示す簿冊であることが確認される。と同時に、『長邑小租簿』は宣統元年抄存と年記事があるが、それは史料10、及び史料(七)との対応から光緒十年以前、光緒十年、及びその後光緒三十三年に至る各時期に置得した地片を従来の所有関係や小作関係を継続する形で適宜分割ないし合筆して佃作に出したもので、その原簿が『長邑小租簿』と呼ばれる簿冊であつたことになる。ただし、すべての地片について対応が見られるのではないので、馮林一関係の全体はまだ未確認とならう。

第 5 表

都・区	(A) [長邑小租簿]					10 [長邑無間上下忙漕米冊]							(B) [長邑經号田单底冊]													
	号	佃名	面積	入米	力米	圩圪	則	面積	業戶	原戶	上下忙	漕米	号	号	置年	得業戶	則	面積	原戶							
下十四・下二	105	陳福觀	畝 3.637	石 3.274	石 0.145	宇59	{	荒官	畝 1.337	吳養真	党 陳邵氏	而 0.189	石	130	光10	鄒進德	荒官	畝 0.668	陳邵氏							
								荒民	2.300	〃	紹 陳堂 祥山	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
								〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	106	任啓堂	2.000	1.666	0.080	亩1	※	荒民	2.000	吳經勳	張孝文	〃	0.152	87	光10	王 銀芳 永田	官	1.400	王 言 言							
	107	王 壬方 永四	1.400	1.442	0.056	〃10	官	1.400	吳養真	王永訓	〃															
	108	秦宝華	0.912	0.895	0.637	〃11	※	官	0.913	吳經勳	吳仲記	〃	0.099	75	光10	秦再新	官	1.673	秦 茂 堂							
	109	秦再新	2.373	2.388	0.065	張33 79.81	官	2.323	吳着真	漢 九 茂堂	〃															
	下九四・廿三	110	陳硯香	0.650	0.670	0.026	〃46	{	民	0.700	〃	秦茂堂	〃	0.070	74	光10	秦全福	官	0.650	秦 漢 基						
		111	秦新德	1.777	1.823	0.071	東城35	〃	〃	〃	〃	〃	〃								〃	〃	〃	〃	〃	〃
		112	朱承祖	2.648	2.728	0.106	〃39	官	2.648	吳養真	朱克賢	〃	〃	0.287	85	光10	朱克賢	官	2.648	朱 克 賢						
113		秦見堂	2.524	2.524	0.101	西城29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃								〃	〃	〃	〃	〃	〃
114		秦友良	1.500	1.470	0.060	〃30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	0.304	82	光10	胡耕山	官	2.816	胡 耕 山						
115		胡耕山	2.810	2.894	0.113	昆13	官	2.810	吳養真	胡耕山	〃															
116		張 男 五 觀	3.840	3.825	0.154	〃40	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	146	光33	顧季和	民	2.500	張 信 義							
117		朱硯先	1.857	1.897	0.074	〃201	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃							〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
119		陳星裕	3.800	3.420	0.152	〃297	荒官	4.256	吳養真	吳養真	朱 真 賢 陳 星 裕	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
						荒官	0.750	吳養真	吳養真	孫云階	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃						

都・區	⑨【長邑小租簿】						10【長邑無間上下忙漕米冊】						⑩【長邑經号田单底冊】						
	号	佃名	面積	入米	力米	圩坵	則	面積	業戸	原戸	上下忙	漕米	号	号	置年	得業戸	則	面積	原戸
	120	孫云階	畝 1.250	石 1.125	石 0.050	298 300			畝 0.500	〃	〃	而 0.070	石 84	〃	孫云階	〃	畝 0.750	孫云階	
							官	1.471	〃	〃		0.159	〃	〃	〃	〃	〃	0.500	〃
	121	〃	0.671	0.691	0.027	〃 302							84	〃	〃	官	0.671	〃	
	124	孫国春	0.800	0.824	0.032	〃 379	荒官	3.298	吳養基	陳秀德	0.466		〃	〃	〃	〃	0.800	〃	
	122	陳秀德 (孫云階)	3.298	2.968	0.132	306 307							83	光10	陳秀德	荒官	1.180	陳大昇	
													〃	〃	〃	〃	2.118	孫球階	
	123	李鳳亭	0.456	0.410	0.018	349							85	〃	朱克賢	〃	0.456	朱克賢	

小 結

本稿は論文というより史料紹介、しかもその過半は検討済みの残務処理的なものである。しかし、それにして馮林一棧の租棧業務の未だ知られていない部分が数点確認された。その一は租棧が清末段階で終了しているのではなく、民国時代、一九二〇年ごろまで存続し、しかも関係地を拡大しているという点、徴税関係と佃租徴集との強固な結合等が確認できる。

註

- (1) 村松祐次『近代江南の租棧―中国地主制度の研究』東京大学出版会、一九七〇年。
- (2) 川勝守『明清江南農業経済史研究』東京大学出版会、一九九二年、第八章、参照。